

第 期 第 1 3 回斜面工学研究小委員会 議事録(案)

平成 1 9 年 9 月 2 1 日(金) 土木学会 A 会議室

出席者 後藤委員長、稲垣副委員長、築瀬、平田、金井、小嶋、桜井、中村、上野、吉田、外狩、伊藤、鈴木、青木、小川、川畑、太田、今村遼平氏(話題提供)

1. 後藤委員長の挨拶と、資料の確認があった
2. 前回議事録の確認があり了承された。
3. 地盤工学委員会の報告
 - ・ 9 月 1 3 日の討論会の報告が稲垣副委員長よりあった。
 - ・ 土木学会の際に地盤工学委員会が開催されたが、特に連絡するような事項はない
 - ・ 「知っておきたい斜面の話 Q & A」が第 3 刷になる(初版 2 0 0 0、第 2 版 1 5 0 0)。修正があれば来週中に後藤委員長に報告してください。
4. 各 WG の報告
 - 特になし
5. これからの活動計画の検討
 - ・ 新規講習会：土砂災害学習マップを 1 0 月 2 3 日までに関係機関に届くようなスケジュールで進めているが、このマップを使った講習会を開いてはどうかという案が出ている。1 1 月 8 日(木)(第 1 4 回委員会の翌日に半日。Q & A も販売する。地元の先生も呼ぶ)に長岡で講習会を開催してはどうか。プレスリリースや資料発送時にアナウンスする。詳細は幹事団で企画をし、ML で流して委員の方々の意見を聞く。
 - ・ 新規講習会：山梨での講習会。甲府で山梨県を後援に行きたい。対象は技術者。講師等は幹事団で企画する。1 月か 2 月に開催。
 - ・ 第二回市民フォーラムは、継続審議。
6. 委員会成果
 - ・ 土砂災害学習マップ(重点研究課題)
 - 上野委員より土砂災害学習マップの説明があった。ゲラの最終チェックを 1 0 月 1 0 日に行う。1 0 月 2 3 日が三周年になるので、その日までに配布する。配布先は桜井委員と後藤委員長で選定する。長岡市、新潟県、国交省、SA、道の駅など。あわせて新聞社(県庁記者クラブ)への投げ込みを行う。
 - プレスリリースは新潟県庁の記者クラブに投げ込む。問合せ先は後藤委員長(電話番号は携帯電話、e-mail)とする。用語の修正(観光ガイド 地域のガイド、新潟県旧山古志村、県庁・・・は削除)。全国版のメディアには地方版で載ったもののコピーをつけて投げ込む。釜井先生にマスコミ関係の相談をする。
 - ・ 新書
 - 鈴木委員から説明があった。各章で担当者を 2 人ほど決めて、執筆者を絞って作業を進める。スケジュールは、書くべき内容を各章で詰めてから取り掛かる。コラムは独立してつくる。新書の大きなストーリーとして「まえがき」を鈴木委員が作成し、

説明があった。

スケジュール：目次・内容の詰めを年内、来年早々に資料・図面を各章の担当者に提出。2～3月に執筆、大まかな原稿は3月までにまとめておきたい。コラムはタイトルを決めて執筆者に3月をめどに書いてもらう。出版は来年度早々の予定で計画する。体裁；縦書き、p150。各章、400字詰め原稿用紙40枚程度。量が意外に少ない。

コラムだけ読んで買いたくなる、読みたくなる、ということにしたい。コラムは横書きで1ページ。

第4章はプロからの視点、第5章がエンドユーザーからの視点。第6章は環境を含めたこと。

豪雨による内水氾濫などはコラムに入れる。

委員会の成果物なので出席されている委員の方には何らかの部分を担当してもらう。

4章に降雨量による予知予測があるので、地震の予知予測を入れたらどうか。

タイトルに工夫が必要なのは。“家族を守る斜面の知識～あなたの家は大丈夫か～”価格は1000円を超えないようにする。ISBNで専門分野でない一般教養分野にしようとするのでは。

豪雨の話の中に、異常気象・地球温暖化の話を入れると良いのでは。海外の話を入れる。佐々木先生に1章のコラムで津波のことを書いてもらう。斜面对策として抑止工をほとんど使わないことを書く。地震の秘話や地震の予兆の話など。

次回の委員会の午前中（10時）から編集委員会（新書WG）を開催。

・土木学会論文集

その1とその2、合計24p。草案を委員の方々が読んでいただき、意見を幹事団に送る。

・話題提供を小冊子にまとめる

継続審議とする。

7. その他

中越地震の写真集・DVD集を作ってはどうかという話があった。青木先生（WGリーダー）を中心に進める。

8. 次回

11月7日

9. 話題提供

今村遼平先生 山地災害における免疫性の本質について

上野委員 斜面災害の周期性について

第2回中越沖地震調査時 9月22日 ルートイン長岡駅前 18:15～20:15

参加者：平田、田村、中村（洋）、稲垣、櫻井、太田、後藤、ゲン・ミン・クァン（岩佐委員の代理）、上野、川畑（合計10名）

1. 話題提供

田村俊和先生 “地震による斜面崩壊との関係から見た海岸砂丘”

2. 土砂災害学習マップ、地質図についての打ち合わせ

1. 氾濫原、崖錐、扇状地 名称を沖積層として1つに統合
2. 古期崩壊および地すべり堆積物 変更せず
3. 最低位段丘～高位段丘 段丘堆積物
4. 城内ともうひとつ（自分に書いた字が読めない）および河川は凡例を抜く
5. 地層名は、時代と岩種で記載（たとえば新第三紀砂岩泥岩など）
6. 地質図に「土砂災害学習マップと同じ範囲」を記入
7. 学習マップの中に「風口峠」を入れる
8. 方位記号を地質図でかぶせて見えなくし、新たに方位記号を入れる
9. オルソ画像には、スケール・説明を入れて「東竹沢」「寺野」を入れる
10. 地質図の引用を書き入れる
11. 地盤工学研究委員会は「地盤工学委員会」のまちがい
12. 10月20日の防災科研の市民フォーラムでマップを配る